

特色ある活動を実践

入賞校一覧

第11回エネルギー教育賞

地域貢献、自主性に工夫

バリアフリー教材に特別賞

21校入賞

「第11回エネルギー教育賞」の最優秀賞と優秀賞を催された。小学校、中学校、高校・高専ごとに、賞の受賞校を決めるため、このほど最終選考委員会（委員長＝有馬朗人）が都内で開かれ、入賞21校を決めた。このうち、最優秀賞は、それぞれ、エネルギー環境教育学会会長からは書面で意見が寄せられた。審議の結果、当日

欠席した熊野善介・日本エネルギー環境教育学会会長からは書面で意見が寄せられた。審議の結果、当日

だ。小学校の部は、農業、漁業、林業などの地域産業との結び付きを大切にエネルギー教育を実践し、地元の大分県立佐伯鶴城高等学校との連携を図るなど、ユニークな取り組みが注目を集めた佐伯市立明治小学校（大分）が選ばれた。また、中学校の部は、横断的な教科学習をカリキュラムの基本に据え、各教科の教員が連携する一方、生徒の自主性を促し、地元の自主性を促し、鶴城高等学校との連携を図るなど、ユニークな取り組みが注目を集めた佐伯市立明治小学校（大分）が選ばれた。

高校・高専の部は、兵庫県立洲本実業高等学校が選ばれた。ものづくりを担う技術者育成の観点からエネルギーや環境問題に取り組んでいるほか、東日本大震災の被災地に向けて街路灯設置のポ

ランティア活動を実施するなど、社会とのつながりも強く意識した活動が評価された。また、高校・高専の部のうち、優秀賞の筑波大学付属聴覚特別支援学校（千葉）は、聴覚に障害のある生徒が正しくエネルギー問題を学ぶため、可視化に工夫を施した教材の開発の取り組みが、選考委員の注目を集めた。その功績をたたえ、今回特別に創設した電気新聞創刊110周年特別賞を併せて贈ることを決めた。応募総数は前回から3校増え46校となった。内訳は小学校19校、中学校9校、高校・高専18校。入賞校のうち、今回初応募は6校だった。

最優秀賞受賞校コメント

垣根を越え交流
今後とも研究推進

明治小学校
福田優子校長

このたびは、本校のエネルギー教育に対して最高の評価を頂き、感謝申し上げます。エネルギー教育モデル校3年目を迎えた今年は、子どもたちが今まで学んだことを外へ発信する活動に取り組みました。エネルギーにかかわるCMを作る過程では、同様にモデル校の指定を受けている佐伯鶴城高校1年生との異校種交流が実現し、校種を越えた学習を進めることができました。

今後も、エネルギー教育を通して子どもたちが持続可能な社会の実現に

教科横断で成果
節目の年に名譽

白石中学校
赤岩輝雄校長

本校はエネルギー教育モデル校の指定を受け、持続可能な社会を実現するために教科横断型の力

リキウムを模索して3年間の活動を積み重ねてきました。特に今年度はまごめ年として、発電のエネルギーミックスの問題を社会科と理科の共同授業として3年生で実施し、公開授業を行いました。その取り組みを最優秀賞という形で評価して頂き、感謝申し上げます。

来年度は本校が創立して70周年を迎えます。そのような節目の年に名譽

ある賞を頂いたことを励みに、未来のエネルギーは、「環境立島」をスロガンに掲げて、エネルギー環境にも力を入れていくと決めています。

生徒と協働重ね
環境立島目指す

洲本実業高校
投石文子校長

このたびは栄えある賞を賜りまして心からありがたく存じます。生徒らと協働しつつ水力や風力発電などの再生可能エネルギー技術の研究を重ねてきました。

本校の位置する淡路島は、「環境立島」をスロガンに掲げて、エネルギー環境にも力を入れていくと決めています。

地域貢献や東北復興支援など、電気科生徒ならではの活動にも目を見張るところがあります。受賞の喜びをバネに、ますます躍進してまいります。

名譽教授）熊野善介氏（日本エネルギー環境教育学会会長）▽藤澤文隆氏（帝京大学教職大学院教授）▽東嶋和子氏（科学ジャーナリスト）▽三田敏雄氏（中部電力相談役）

選考委員は次の通り。（五十音順）



選考委員は次の通り。（五十音順）